

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	のびのbe-サポート あおの丘			
○保護者評価実施期間	2025年 5月 1日 ~ 2025年 8月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数)	25
○従業者評価実施期間	2025年11月1日 ~ 2025年11月30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月1日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援と集団支援の提供 外出及び、買い物等の体験の場の提供	・季節に合わせた活動内容を考案しており、個別に行うプログラムと集団で行うプログラムを状況に合わせて提供している。また、長期休暇期間中は、社会資源を活用した外出や食材に直接触れながら行う調理活動、お金を支払う経験を重ねられるおやつ買い物など、本人が体験する活動内容を提供して、社会性を高められるプログラムを提供している。	・自信をもつことや、より楽しみながら参加できる活動になるよう、どのような活動内容が楽しかったか、どのような活動が得意か好きかなど、プランニングの前に児童の皆さんにお話を聞き、成功体験を重ねられる活動を提供していく。
2	保護者及び関係機関との連携	・学校やご家庭での過ごし方について情報共有を図っている。毎年度、放課後等デイサービスでどのように過ごしてほしいか、また、どのような支援を望まれているか面談及び書面での聞き取りを行っており、関係機関で共有が必要な支援内容となる場合、一貫性のある支援の組み立てを行っている。	・密な連携を図るために、些細な情報でも共有を重ねていくことを継続して行っている。 ・保護者より何か困り感が発生したお話を聞いた際に、関係機関との連携を迅速にとっていくための関係性を築く。
3	スタッフ間の連携、情報共有	・ご利用者様の日々の記録について、口頭での情報共有に合わせて、付箋を使用しての記録を残してデータ化している。出勤や退勤時間の違いによりスタッフ同士の情報共有が困難であった状況も解消され、より密なやり取りを行うことが出来ている。	・付箋紙を使用しての共有も大切だが、対面での情報共有から表す情報もあると考えられるため、話しがしやすい環境を整えながら、より支援の充実を目指していく。

	事業所の弱み（※）だと思われる事 ※事業所の課題や改善が必要だと思われる事	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域においての、役割や行事などへの参加	・感染症等の拡がりを懸念して、地域行事へ参加する機会を提供できなかった。 ・外部の行事の日程と自事業所の開所設定日が合わず、設定が困難な状況であった。	・地域の行事の情報収集を行っていく。 ・外部行事だけでなく、自事業所開催の催しに地域の方を呼ぶ機会を設定していく。
2	集団支援のプログラム	・小学生の方から高校生の方まで、年齢や体格、個々のスキルも違う児童の方々であるため、小規模、中規模でグループを分けて活動を行っている。集団での活動経験を提供しているが、活動後の達成感に差異があるように感じている。それそれが活動の中で得られた内容の違いがある中でも、成功体験を残すことや、達成感を重ねられるプログラムを提供したい。	・集団活動において、メンバーの中心となる人物を選出して、リーダーとなって活動に参加することでの自信（成功体験）の積み重ねや、みんなと同じ空間で過ごせた成功体験の積み重ねなど、一人一人の満足度を上げられる支援を考える。
3	家族支援に関する内容	・ご家族の方より、相談内容をお聞きする機会があるが、情報提供の内容が不十分ではないかと感じている。また、回答が出来ない状況から、ご家族を不安にさせてしまう可能性を懸念している。	・相談内容に問わず、普段より情報提供を行うための地域資源についての情報収集を行っていき、職員間での共有する機会を設けていく。 ・研修や勉強会に参加する機会を増やしていき、職員のスキルアップを図っていく。